

折にふれて

1

ガラス窓からは 秋の青い空と 教会のしまつてる窓と
小鳥の 飛ぶのが 見えてゐた
暈の しいてある 室で
僕たちは あの時 何を したんだらう
火鉢に 手を かざして
ひとみを みつめあひながら
あなたは 僕に 何を 言つたんだらう
忘れやしない
もし あの室の事を 二人で 話しあふ時が あるなら
空がきれいだった と言ふより
僕は あなたに 言ひたい事があつた
でも もう 言はない

2

大鰐で すごした一夜の事は おぼえてゐるでせう
僕は ふいと一人で 出かけたでせう
あの時から あなたを 憎みました
夜ふけでした 僕は 橋に立つて
赤や 緑の 電燈の うつろのを見つめ
さざ波の しづかな音を ききながら
白い 紙を ちぎりました
口惜しかつたのです
闇の中に 雪のやうに ちらちら 紙は 落ちて行きました
心を静めて かへりました

3

ふつと ためいきをついて あなたは 息たえた
まぶたを とぢさせると 目を つぶつた
あなたの 親類は すがりついて 涙を こすりつけた
僕は 見てゐた
外では 雪が ふりしきつて
ストーブの 火は 音たてて 燃えてゐた
もう一度 近いうちに 火の粉を 見るわけだ
あなたがもえる火を 見るわけだ
さう考へながら 僕は 坐つた
寝台では あなたが 横たはつてゐた
僕は 明け方に
雪景色を見るのが 待ちどほしかつた